



自信への一歩

温かいものを温かいうちに食べる…。家庭では当たり前のようなことを、足羽学園でもできないだろうか？食育も兼ねて、何かできることはないだろうか？そんな思いから始まった取り組みについてご紹介します。

なぜできないの？

足羽学園は、足羽更生園と併設されており、一つの厨房で約100人分の食事を作っています。よって大人数の食事を数品作っているうちに冷めてしまいます。そのため温かいものを温かいうちに食べる、というのは難しい現状です。しかし、よりおいしい食事を食べていただきたいという思いがありました。

またそれだけではなく、食育についての取り組みも進めていきたいという思いもあり、この課題について取り組んでいきたいと思いました。

どんなことができる？

では、温かいものを温かいうちに食べるにはどうすればよいのか？入所型の施設では、食事は作られたものを食べるだけになりがちです。調理はできないにしても、利用者の方にもできることは

あるのではないかと考えました。そして私たちが幼いころ、家庭で手伝いをしてきたことをヒントにし、足羽学園でも配膳当番を決めて、手伝いをしたらよいのではないかとという結論に至りました。

当番さん、だあれ？

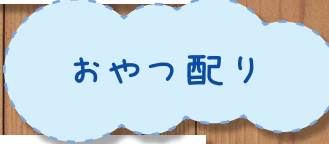
『決められたご飯の量をよそつたり、夕食時に食べているおやつを配つたりすることならば、利用者の方にもできる！』そう信じ、利用者の方が主体となって話し合いを行う自治会で職員から話をしました。すると「やりたいい！」と意欲的な声が聞かれ、配膳当番を曜日ごとに決めることになりました。

配膳当番の日には、配膳の職員と共に食堂へ行き、手洗い、うがいをし、マスク、エプロン、配膳帽を着用します。そして、配膳職員から何を指示を受けて手伝いを進めていきます。

当番さんのお仕事、あれこれ!



台拭き



おやつ配り



手洗い・うがい



お膳運び



いただきます!

一緒にいこう!

ご飯の量について、利用者の方や職員が一目でわかるように、食堂には絵(写真)を掲示しました。それを見ながら行うので、初めは不慣れで、ご飯をよそうことにも時間がかかっていました。ぴつたりのグラム数になるように調整するものの、増やしす

ぎたり減らしすぎたりして、なかなか思い通りにならないこともありましたが、また中には、ご飯をよそっているうちにテーブルの上に落ちたご飯を拾って食べてしまう利用者の方もいらっしゃいました。

の方もいらっしゃいました。そして、配膳当番の日になると「今日、一緒に配膳行こなよ!」「今日の配膳の職員は誰なんや?」と利用者の方から言ってくるのが増え、配膳当番を楽しみにしているだけではなく、利用者の方が責任感や使命感のようなものを感じているようでした。

今度は自分たちでチャレンジ!

配膳当番が定着したことで、平成26年度は自分たちで夕食作りをすることにに向けた取り組みを計画しています。これは、特別支援学校卒業後を見据えた内容にもなっており、自立生活訓練への取り組みでもあります。

まずは厨房から食材の提供を受け、夕食の献立の中の一品を作ることから始めていきます。包丁で食材を切ることから、食べ終わって食器を洗うことまでを自分たちで行います。また自分たちで調理をすることで、すべての献立ではないですが、温かいものを温かいように食べることもできます。そして10月以降に、食材の買い出しにも行けるように、繰り返し行っていきたいと考えています。

足羽学園では、夏休み期間を利用してキャンプを実施し、グループごとで調理をしています。その際、利用者の方同士で役割分担を行い取り組む姿を見て、感心すると共に、成長を感じ、もっと利用者の方の力を引き出せないかと考えました。

配膳当番を通して、自分たちのできるものが少しずつ増えていくと、配膳が楽しみになり、スケジュール表を見て、翌日の配膳内容を確認する場面も増えました。

平成26年度は足羽学園の事業計画の柱として、自立生活訓練への取り組みを計画しています。将来は一人暮らしをする夢もっている利用者の方が、自分の食事を自分で作れたという自信につながるよう、栄養士、厨房職員と連携し取り組んでいます。

足羽学園

主任 瀧波 克代